

学校目標・経営方針	校訓「叡知創造」の精神のもと、21世紀をたくましく、心豊かに生き抜き、社会の進展や調和に貢献できる人間を目指す	
本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	A ほぼ達成できた。（8割以上）
	2 学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実を図る。	B 概ね達成できた。（6割以上）
	3 生徒会活動を活発化するとともに、諸活動をおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	C 不十分である。（4割以上）
		D 達成できなかった。（4割以下）

山梨県立上野原高等学校校長 棚橋 雅一

4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

番号	本年度の重点目標			自己評価結果	
	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	① 自己管理能力の育成を図り、遅刻や欠席、朝食の欠食を減らす基本的な生活習慣の確立を図る指導 ② 法令遵守及び社会規範への意識を高め確立を図る指導 ③ 節電・節水、ごみの分別などを通じて、環境美化を意識させる指導	学校評価アンケート等 学校評価アンケート等 学校評価アンケート等	以下、生徒評価、教員評価、保護者評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価項目1に該当する結果のみ示す。 【教員評価】ベスト3 ②感染症対策 [57] 【生徒評価】ベスト3 ①開始時刻着席 [89] ②校則を守る [86] （保護者評価）ベスト3 ①校則規範意識 [61] ①毎日朝食摂取 [61] ②感染症対策 [60] 【教員評価】ワースト3 【生徒評価】ワースト3 該当項目なし （保護者評価）ワースト3 ③災害対処話し合い [16]	A 【教員評価】改善した項目該当なし 【生徒評価】改善した項目 ・感染症対策 69→78 [+9] 【教員評価】改善を要する項目 ・校則の規範意識指導 51→28 [-23] ・防災や減災の指導 51→25 [-26] 【生徒評価】改善を要する項目・避難経路の確認 69→51 [-18] 授業中の換気のルールと習慣や昼食場所の分散など、「新型コロナウイルス対策」がかなり生徒にも理解され、浸透して習慣化していると考えられる。今後も継続していく。 教員と生徒の評価が異なる項目「規範意識」に関しては、教員の意識と生徒の意識のずれを反映していると思われる。教員と生徒の相互のコミュニケーションを活発にすることで、相互理解を深める。 感染対策のため多くの学校行事が中止になった。それでも優先順位の高い、防災や減災については、紙上訓練やハザードマップなどを活用するなど新しい取り組みが必要である。
2	学習習慣の確立と確かな学力の定着を図る。個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実を図る。	① 家庭学習と授業の一体化を進め、確かな学力の定着を図ると共に、学ぶ意欲を高め、主体的・協働的な学びを深める指導 ② 相談活動及び個々に応じた指導の充実を図り、個々のキャリアを形成していく進路実現を図る指導 ③ 主権者教育や社会参画・地域連携事業を通して、未来を担う公民としての資質を育む指導	授業アンケート等 産業社会と人間、総合的な学習の時間での指導 行事アンケート等	以下、生徒評価、教員評価、保護者評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価項目2に該当する結果のみ示す。 【教員評価】ベスト3 ②基礎基本の定着・授業改善 [57] 【生徒評価】ベスト3 ③成績評価規準理解 [79] （保護者評価）ベスト3 ①進路プランが生徒に合う [61] 【教員評価】ワースト3 ③家庭学習と授業の一体化 [6] 【生徒評価】ワースト3 ①自主的な学習習慣 [27] ②授業計画の把握 [49] ③ICTを活用した学習 [52] （保護者評価）ワースト3 該当項目なし	B 【教員評価】改善した項目該当なし 【生徒評価】改善した項目 ・自主的な学習習慣 20→27 [+7] 本校生の長年の学習課題であった「自主的な学習習慣」に関しては、教員評価に比べて生徒は改善傾向と評価している。本校は在宅オンライン授業に取り組み、自宅で学習する機会が増えたことが評価を押し上げていると思われる。 一方で教員評価の「授業と家庭学習の一体化」は、評価点1桁前後で長年推移してきた。補充的な学習指導に時間がかかり、基礎学力定着のために家庭学習とリンクさせる段階に至っていないことを示唆する。 ICTの活用は、直接生徒とつながる仕組みなので、今後もオンラインの学習支援の仕組みをうまく活用することが課題である。R4年度より、1年生にはBYODが導入される。個別最適な学びも従来よりも仕組みが作り易くなった。授業と家庭学習の一体化をさらに進めながら、望ましい学習習慣の確立と確かな基礎学力の育成を目指す。
3	生徒会活動を活発化するとともに、諸活動をおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	① 文武両道の実践に向けた指導と各部の目標達成への積極的且つ規律ある部活動の指導 ② ホームルーム活動をおして活力あるクラスづくりを目指すと共に、いじめをなくし生命と人格を尊重する態度を育てる指導 ③ 集団活動や種々の読書活動をおして、思考力・判断力・表現力などの育成を図り、他と協働し協力し合うなど、思いやりのある心を育てる指導	学校評価アンケート等 心ボックスやいじめアンケートの活用 学校評価アンケート等	以下、生徒評価、教員評価、保護者評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価項目3に該当する結果のみ示す。 【教員評価】ベスト3 ①朝の活動への取組 [63] 【生徒評価】ベスト3 該当項目なし （保護者評価）ベスト3 ③保護者の意見が言える [59] 【教員評価】ワースト3 ②SNSの適切な利用の指導 [5] 【生徒評価】ワースト3 該当項目なし （保護者評価）ワースト3 ①家庭での読書 [-19] ②PTA活動への関心 [-12]	B 【教員評価】改善した項目 ・朝の活動への指導 51→63 [+12] 【教員評価】改善を要する項目 ・いじめ不登校未然防止指導 63→30 [-33] ・SNSの適切な利用の指導 34→5 [-29] ・文武両道の実践指導 36→9 [-27] 【生徒評価】改善を要する項目 ・部活動への積極参加 68→54 [-14] ・楽しい学校生活を送る 75→63 [-12] 朝の活動は、読書活動を中心にクラスや年次の実態に合わせて自由に取り組んでもらう形になったのが評価を高めた。 一方で感染対策のため部活動は大きく制限され、満足な活動はできなかった。生徒会活動全般縮小だったので、それが学校生活の楽しさを低下させたと考えられる。 SNSを使いたいじめなどへの対応が難しい時代である。マナーを含めて情報リテラシーの育成と向上を図ることが、学校および家庭にも求められている。
4	教職員の働き方改革を進める。	ICTの活用を促進し、日業務や授業準備などに係る時間短縮と効率化を図る取り組み	職員アンケート等	【教員評価】ワースト3 ①業務改善と効率化 [-3]	C 業務改善には、業務の優先順位を整理することが大切である。さらに効率化を目指す場合、時間をどう削減できるのかを見極める必要がある。その上で自動化やペーパーレス化を推進する。(要DX)

学校関係者評価	
評価	意見・要望等
3	◎学校の現在と将来について、校長先生を先頭として教職員の方々が一丸となって真剣に取り組んでいらっしゃることに、これまでの評議員会や総合学習発表会などを通して、十分に伝わってきた。感念な姿を感じた。 ◎評価結果・考察を拝見して、市内の中学校としても大変関心の高いものであった。特に「年次が上がるにつれ評価が高まる傾向」は興味深い。 ◎避難訓練が未実施とあるが、先日も東北で再度の地震があり、コロナ禍であっても避難訓練は実施すべきではないか。
3	◎「理解度に応じた学習指導」など、多くの項目で改善されており、学校の丁寧な対応の成果であると感じた。また、「選択科目が自分の進路に合う」はドリカムシステムの効果が大きいことがよくわかる。 ◎GIGAスクールまたコロナ感染症により、小中学校のICTを活用した教育は驚くほどのスピードで進んでいる。高校でも保護者の関心理解が必要と思う。 ◎貴校卒業生の進路をみると進学(大学・短期大学・専門学校)を希望する生徒の割合が多いことがわかる。進学先の受験形態や受け入れ状況は年々変化して、各進学希望先の最新の入試情報(入試要項やHP情報)を入手し対応するよう指導されると良い。
3	◎コロナ禍において行事の中止が続き、学校としての楽しさを味わう場が減少しています。学園祭が実施できたことはとても大切なことだと思います。義務段階でも遠足や修学旅行など実施の方向で対応しています。 ◎いじめ・不登校の未然防止の評価が低くなっているのが大変気になります。義務段階でも不登校は大きな課題で、再登校に繋げることが大変むずかしく、ひきこもりとなるケースを心配している。 ◎子どもたちが上野原高校を好きになるというか、通ってみたい学校にするための方法を提案したい。高校生が小中学校で学習や進学の支援をするという活動はどうだろうか。上野原高校の生徒と触れ合うことで、小中学生にとって上野原高校がより身近なものになると考える。 ◎「PTA活動」については、やはり今後の課題であると感じる。一方で、「感染症対策」や「ICTによる学習支援」は生活や授業に直接結びつくため、保護者も関心が高いことを再認識した。
2	分析の視点が明確で、数値による表示や経年の変化などの資料が分かり易かった。「考察と改善策」でも、数値を用いて次年度に向け押さえるべきポイントを示されている。課題に取り組んで今後改善を図ってほしい。

※※※ (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。